

市民と議会・行政をつなぐパイプ役として
地方議会に議員を送り出しています

編集・発行 世田谷・生活者ネットワーク 代表/佐藤里子
〒154-0021 世田谷区豪徳寺 1-20-7-101
TEL: 03-3420-0737 FAX: 03-3706-1744
email: setagaya@seikatsusha.net
http://setagaya.seikatsusha.net

世田谷・生活者ネットワークは、
2017年

東京都議会議員選挙に向けて

岡本京子さんの
擁立を決定しました。



岡本京子さんは、生活クラブ生協を皮切りに
20年余の市民運動の実績があります。食の安
全、とりわけ遺伝子組み換え植物・食品の対策、
原発事故の後には、食品の放射線量に関して、
風評に惑わされない情報提供に取り組みまし
た。脱原発・自然エネルギーへの転換を訴える活
動にも積極的に参加しています。豊富な情報量
と、「変だ」と思えることには何事にもひるまず挑
戦する姿勢は、都議候補としてうってつけです。
子ども食堂で小学生たちと興じ慕われる「優し
さ」も、もうひとつの魅力です。

現職・西崎光子から岡本京子へのローテー
ションを実現させるため、世田谷・生活者ネット
ワークは全力で活動します。

世田谷・生活者ネットワーク代表 佐藤里子

新春座談会

2020年、バリアフリーの 東京のまちを目指して。



左から、高岡じゅん子、田中みち子、岡本京子、西崎光子。

**近づく東京オリ
ンピックを考
える**

全員「あけましてお
めでとうございます」
岡本「昨年はおリン
ピックイヤーに加え
て、小池新体制で
東京は話題が多かつ
たですね。今年
2017年も五輪
会場の話など盛り上
がりそうですね。
2020年まではこ
の調子でしょうか？」

西崎「生活者ネットワ
ークは、東京オリ
ンピック招致に反対してきま
した。大会
費用や施設運営費用が膨れ上
がるから
です。例えば、長野冬季オリ
ンピックの
ために作られた施設は、結局そ
の後使
こなせず、今は修繕費が嵩み、自治
体の
財政を圧迫している状況です。本
格的
な超高齢社会にむけ、医療・福
祉に予
算を使うべき時にオリ
ンピック
どころではないと考えていま
した」

田中「原発事故の被害者支
援もまだ
だ不十分ですね」
岡本「でも招致は成功し、い
よいよ3
年後には開催となりました。準
備には
設だけでなく、終わった後の東
京全体
を考えていく必要があります
ね」

**子ども・高齢者・
障がい者のために**

岡本「私は世田谷で子ども
食堂をやっていますが、本
当に
様々な事情を抱えた家庭
があります。子どもを帰
る
西崎「そうですね。やるから
は、誰かが幸せに暮らせる
東
京で、誰もが楽しく参加で
きる五輪にしたいですね」

田中「東京五輪はバ
ラリンピックに
焦点を
当て、高齢者や障がい者が暮
らしやす
いバリアフリーのまちをつ
くる契機
になる
とい
いですね」

西崎「例えば車いす
で電車に
乗る場合、
乗車料金は半額ですが、切符
を買
おうと
したら券売機の子供用ボタ
ンを使
うよう
車掌に言
われて傷
ついた
という
話が
ありま
す。そ
のような
問題の
改善も
都議
会で訴
えています」

岡本「公共の場
における外
国語表
示やピ
クトグ
ラム(絵
文字)も
不十分
です。ま
た駅の
アナウ
ンスは
聴覚障
がい者
には聞
こえま
せん。企
業の電
子広告
を緊急
時の情
報提供
に使え
たらよ
いので
すが…」

田中「大人の都合
でなく、子
どもの
身にな
つて制
度・設
備を変
えてい
くとい
うこと
ですね。
高齢者
・障がい
者への
対応も
同じで
す」

高岡「私は昨年、父
を看取
りました。
最初に
認知症
の症状
が現れ
医療機
関に相
談した
時、「3年
ほど前
から症
状はあ
つたは
ず」と
言われ
ショック
を受け
ました。
少しづ
つ進行
する症
状は、
毎日緒
にいる
家族は
ど気付
きにく
いので
す。さ
らに男
性はプ
ライド
もあり
家族に
隠して
取り繕
う傾向
があり
ます。高
齢者が
地域で
活躍で
きる居
場所を
広げて
いくこ
とも急
務です」

田中「大人の都合
でなく、子
どもの
身にな
つて制
度・設
備を変
えてい
くとい
うこと
ですね。
高齢者
・障がい
者への
対応も
同じで
す」

高岡「児童相談所
は都の管
轄なの
で、重
度の問
題ある
家庭か
ら子ど
もを預
かるシ
ェルタ
ーはあ
つても
、学校
から遠
い場合
がほと
んどで
す。親
とだけ
でなく
、なじ
んだ地
域や友
達とも
引き離
されて
しま
います。
せめて
区の福
祉セン
ターな
どの身
近な気
づきを
、都に
繋いで
いく連
携が必
要です」

西崎「精神的な障
壁を取り
除く「心
のバ
リアフ
リー」
ができて
こそ、
適切な
物理的
バリア
フリー
ができ
るので
すね。
多様性
の時代
、皆が
幸せに
暮らせ
る街を
つくる
ために
、今年
もやる
べきこ
とはた
くさん
ありま
す！」

**「東京に遺すべきもの
「やさしさをレガシーに」」**

シンポジウム

「エネルギーシフトは東京から」

福島原発事故から6年、二度とあのような事故をおこさないためにも、原発に頼らない、再生可能エネルギーにシフトして行く必要があります。城南信用金庫は、一早く脱原発政策を企業として取り入れました。元理事長である吉原毅さんを迎え、これからの東京のエネルギー政策について、区長と共に語っていただきます。

【日時】2月26日(日)14時～16時

【場所】成城ホール 4F集会室D
(世田谷区成城6-2-1)

【登壇者】世田谷区長 保坂展人氏
城南信用金庫元理事長 吉原毅氏

【コーディネーター】都議会議員 西崎光子

【司会】都政担当政策委員 岡本京子



吉原毅氏



区議会議員 高岡じゅん子

- 羽根木一丁目在住
- 生活者ネットワーク世田谷区議団幹事長
- 区民生常任委員会 災害・防犯・オウム対策等特別委員会
- 環境カウンセラー

区長に問う、清掃工場問題

世田谷清掃工場の作業室内ダイオキシン汚染に対する、東京二十三区清掃二部事務組合の最終報告が出ました。世田谷区の主張が取り入れられ、来年度からも清掃工場の安全を検証し、平成32年度以降の23区全体の廃棄物処理計画に反映していく方向性が見えたことは成果です。今後の修理費用の問題も含め、検証に向けた二層の情報公開を求めました。

区長からは「世田谷清掃工場は構造的欠陥が疑われる施設であり、検証組織を立ち上げる際は区民参加を求めたい」との答弁を得ました。今後も区民目線で情報提供を求め、安全なごみ処理の実現に向け働きかけていきます。

災害時に避難が難しい人への支援を

世田谷区には人口呼吸器の方をはじめ、痰吸引機など在宅で医療機器を使用している方が数百人いると言われています。このような人々は、災害が発生したときに避難が困難だけでなく、一般の避難所で過ごすことも難しいと予想されます。避難時に障がいや難病の人々を支えるため、個別の支援計画作りに着手することを求めました。

担当の特別委員会の委員として、来年度に向けた地域防災計画の改定が大詰めです。困難を抱える方のそれぞれの立場に立つて発言していきます。

健全な食生活ができる人間を育てる

昨年7月、地域と連携した食育に取り

組む小金井市を視察しました。地元農園でとれた野菜を上手に使って専門家がメニュー作成・レシピの提供をし、児童館が親子対象に食育プログラムを企画しており、行政のタテ割りにとられない連携の重要性を強く感じました。健康せたがやプラン第2次後期計画に、消費生活課や都市農業課との連携をはっきりと盛り込むことを求めました。

江戸東京野菜も栽培している小金井市の高橋農園(右端中央が高岡じゅん子)。



子どもも大人も食の正しい情報を知り使いこなせるよう、何年も要望してきた「最新の食品表示に関する講習会」も、12月6日(土)と実施されました。

世界では、公園の花壇に花でなく野菜を植えて市民交流の場とする「エディブル・シティ(食べられる都市)」や、小中学校に畑を作る「エディブル・スクールヤード(食べられる校庭)」などの動きもあります。食育の重要性を、今後も機会あるごとに訴えていきます。



区議会議員 田中みち子

- 砧一丁目在住
- 生活者ネットワーク世田谷区議団政調会長
- 福祉保健常任委員会 環境・空き家等対策特別委員会

増え続ける虐待死をなくすために

2014年度に虐待を受けて死亡した18歳未満の子どもの数が、前年度比で8人増の44人だったと厚労省が発表し

ました。このうち、望まない妊娠などの理由で生後24時間以内に命を落としていた乳児が6割を超えています。また、妊婦検診未受診の母親が18人で、そのうち14人は、助産師らの立会いなしに自宅出産しており、最悪の事態につながりかねない危険な状況が増加しています。

医療機関と連携した指導・支援体制や、妊娠電話相談窓口の商業施設などへの周知協力、これまでまったく行われていない「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(互いの性差を理解しよりよく生きる権利)」の情報提供を求めました。増加の一途をたどる虐待死を防ぐため、様々な視点で質問・提言をし続けていきます。



児童虐待防止推進月間に、祖師ヶ谷大蔵駅前政策を訴える田中みち子。商店街のウルトラマンも、オレンジのたすきを付けています。

介護予防・日常生活支援総合事業について

介護保険制度の改正に伴い、昨年4月から新しい総合事業が始まり、NPOなどによる住民主体の支援の活性化が求められています。現在12ヶ所の地域型サービスですが、27地区で3ヶ所程度整備する予定ですが、すべての高齢者に徒歩圏内で会食できる場を提供するまでにはほど遠い状況です。区民による多様な支え合い活動を活発にするために、区の施設を利用しやすいよう環境整備を行うことや、新たなサービスの創出が進むよう生活支援コーディネーターを育成することを求めました。地域資源の開発やネットワーク化の要となる生活支援コーディネーターがしっかり機能し、高齢者

手話を学んで、皆と一緒に社会参加。

10月25日COS下北沢、1月13日山野区民集会所にて、手話講習会を連続開催しました。田中みち子・高岡じゅん子の他、政策委員の岡本京子も参加し、自己紹介や挨拶などの実践的な指導を受けました。秋にお招きした講師の方は、障がい者枠で企業に就職したものの、社内で手話のできる人はおらず、日頃は筆談とチャットで打ち合わせをしているそうです。障害者差別解消法施行を機に、職場でも手話を言語として広めるため、社内手話講座を始められました。障がいを乗り越えるコミュニケーション手段の確保に向け、条例化の提案など、一歩一歩進めていく必要性を再認識しました。



下北沢での講師は、4歳の時に失聴された当事者であり、会社勤務の傍らドラマ・映画の手話指導に携わる 塩谷武志さん。

すべての生き物のためのみどり政策を!

11月1日、東京・生活者ネットワークは、生物多様性の観点から東京都のみどり政策を考えるため、明治神宮境内の生き物調査を行いました。野生生物総合調査コーディネーターの新里達也氏に解説をいただき、餌付けによってタヌキが全滅しかけたことなど、人と近い自然だからこそ適切な保護の方法を学ぶことができました。人口が集中する東京で、いかに生態系を維持し、生物多様性を守っていくことができるのか……とても難しい、しかし重要な問題です。



左から、西崎光子、岡本京子、高岡じゅん子

や子育てなどを地域で支えてゆけるのか、今後も注視していきます。

障がいを持った子ども、親亡き後は深刻な状況です。グループホーム整備が予定数を確保できない中、当事者の家族が協力してホームを作ろうと、NPO団体が立ち上がっています。新しい市民団体であっても、経営基盤強化や場所の確保など、グループホームの整備ができるよう支援体制を求めたところ、さっそく行政から説明の連絡が入ったとのことでした。個人の問題をかかえこまず、多様性を公表し、地域でつながり支えあう暮らし方は、今後ますますひろがってゆくでしょう。これからも区民の声をしっかりと届けられる活動をしていきます。

カンパをお願いします。

生活者ネットワークは、市民のカンパとボランティアで政治活動を行っています。ご賛同くださる方は以下の口座にお振り込み下さい。活動費として大切に使用させていただきます。

世田谷・生活者ネットワーク
郵便振替口座 00110-I-765709

あなたも会員になりませんか?

生活者ネットワークは、自分の住まわちを暮らしやすいまちにしたいと思う人々の集まりです。生活のなかで疑問に思うことを一緒に考えてみませんか? 環境・福祉・子ども・食・女性・平和など各部会への参加の他に、都・区議会報告や機関誌などの情報が届きます。講演会や学習会などのイベントに優先参加できます。サポーター会員は年会費1000円から。電話またはメールにてお申し込み下さい。

*世田谷・生活者ネットワークからの通信を、郵送でなくメール添付にて配信希望の方は、事務局までメールアドレスをお知らせください。setagaya@seikatsusha.net

区政へのご意見をお寄せ下さい。 世田谷・生活者ネットワーク

第二の故郷までもが奪われる?

国は昨年6月、福島原発事故・区域外避難者に対する被害救済法に基づく住宅支援を、今年3月に打ち切ることと決定しました。「原発事故被害者の救済を求める全国運動」では約20万筆の署名が集まり、10月26日に国会議員へ提出しています。(生活者ネットワークを通じて署名下さった方、ありがとうございます。)世田谷区議会でも生活者ネットワークほか複数の会派が、国・東京都・福島県に対し支援継続を求める意見書を提出しようとしたが、自民・公明が反対したため叶いませんでした。この問題は、先の一般質問や決算特別委員会でも取り上げました。区内に自主避難している家庭は26世帯。住宅無償提供打ち切り前に、被害者が追い詰められないよう、一軒一軒を個別訪問し、それぞれの事情に寄り添った支援を行うよう、注視していきます。



田中みち子と世田谷・生活者ネットワーク会員とで、「原発事故被害者支援の院内集会(請願署名提出集会)」に参加しました。